

北里学級だよりNo.7

# たんぽぽ

2018. 11. 1



## 北里学級と「散歩」 ～季節を感じる～

北里学級の毎週木曜日の授業は「散歩」。入院中の子どもたちが、外気に触れることができる大切な時間です。シャボン玉を飛ばして遊んだり、海洋生命科学部のミニ水族館「北里アクアリウムラボ」の見学をします。

「は？シャボン玉？俺いっす」なんて言っていた中学生もいつの間にか夢中になって遊んでしまいます。散歩に参加するには医師の許可が必要ですが、入院や治療のストレスとたたかっている子どもたちにとって、散歩による気分転換はとても大切な時間です。

「北里アクアリウムラボ」は小さいけれど本格的な大学の研究施設で、展示されている海洋生物についての説明もわかりやすく、中には他では見ることができない貴重な生物に会えたりするので。

散歩の効用は、なにより、外の風当たること、青い空を見上げること、木々や草花など自然を身近に感じることによるリラックス効果で、その効果は非常に大きなものです。

病棟の医療スタッフは、リハビリや検査を散歩の時間に合わせて変更したり、外へ出るので気温に合わせて着替えさせたり、車椅子の子や点滴を付けたまま参加する子のために、その子に合わせて安全面に配慮したりと、忙しい中、この散歩のために様々な準備をしてくださっています。

北里学級では、毎週の散歩の時間をこれからも大切にしていきたいと考えています。



## 釦持 学先生が講演

～相模原市特別支援教育研究会～

相模原市内の小中学校で病・虚弱、肢体不自由、弱視の特別支援学級を担当している先生方36名が集まって、去る10月22日に北里大学病院で研究会が行われました。

今回は、北里大学病院NICU主任医師、釦持 学先生に講演をお願いしました。NICUを「卒業」していった子どもたちの保護者の皆さんが、どのようにして就学先（通常の学級、特別支援学級、特別支援学校等）を選んでいるのか、医療と教育の連携という観点からお話をいただきました。

当日は、担当校長をはじめ相模原中央支援学校、陽光園、子育て支援センター、市教育センター、国立特別支援教育総合研究所からもご参加いただき、増えつつある特別な支援が必要な子どもたちと、その家族を支えていくための方策が話し合われました。



## ハロウィンの会

～「夢をかなえてドラえもん」を披露～

入院中の子どもたちのストレスを軽減する取り組みは、小児病棟でも行われています。10月31日に実施された「ハロウィンの会」は、病棟保育士を中心に、子どもたちだけでなく保護者の方にも楽しんでいただけるような内容で企画されました。ここに参加させていただいた北里学級の出し物は「夢をかなえてドラえもん」。ハロウィンとドラえもんの関係についてはさておき、数日前から朝の会などで練習に取り組みました。

当日は、ハロウィンコスチュームを身に付けて、歌っている子どもたちも見ている子どもたちも一緒になって楽しいひと時を過ごすことができました。

